

日英語の色名に見られる木の文化と石の文化の相違—灰色・Mouse・Beige など Gray 系を中心に

Differences on Stone Culture and Wood Culture between English and Japanese Color Terms: With a Focus on Color Words in Gray Regions such as *Mouse*, *Beige*, *Flint*, and *Charcoal gray*

吉村 耕治 Kohji Yoshimura 関西外国語大学短大部教授

Kansai Gaidai College

山田 有子 Yuko Yamada 色彩講師・挿絵画家

Color Instructor, Illustrator

キーワード：日英語の文化的相違、鼠色、消炭鼠、溝鼠、濃鼠、白鼠、朽葉鼠

Keywords: cultural differences between English and Japanese, mouse color, charcoal gray, slate gray, dark gray, pale gray, otter gray

1. はじめに—100 を超える「百鼠」の色名

色名には自然に対する人間の思いが内包されている。「四十八茶百鼠」と言われるように、江戸時代中期から末期（1651-1868 年）にかけて最も流行した色は、茶系統の色で、二番目が鼠色系の色であった。「百鼠」の数については、「多いということを表しているにすぎない」とか「本当は幾つあったのかわからない」（『奇妙な色名事典』p. 13）などと言われてきた。本稿は、百鼠の命名法に基づく色名が 21 世紀においても和服や陶磁器の分野で使用されていることを示し、「百鼠」の現存する 122 色を提示すること、及び、日本語と英語のグレイ系の色名に見られる文化的相違を考察することを目標にしている。

2. 英語色名の Gray と和名色名の灰の語源の違い

英語の *gray* は、印欧祖語 **ǵher* (to shine, to glow: 輝く)、ゲルマン祖語 **grēwaz* に由来し、古英語の *græg* から来ている。ドイツ語の *grau* と同語源の語で、ラテン語では *rāvus* (gray, tawny の意) に相当する。英語には古英語起源の *gray* (grey) の他に、初出例が 1420 年の *mouse-dun* や、1606 年初出の *mouse*、1869 年初出の *ecru*、1879 年初出の *beige*、*beige gray*、1884 年初出の *biscuit* などがある。

和名色名の灰色の「灰」は、「ナ（手の意）＋火」（『新大字典』、p. 1451）の合字で、「手に持った火」の意で、燃え残った灰を表す。灰色着色材には普通、黒色と白色の顔料を用い、灰色顔料は用いない。日本では灰を植物染料の媒染剤として使用している。

灰色は本来、固有色名で、灰の色は茶味を帯びた明るいグレイである。平安時代には灰が喪の色で凶色であったため嫌われ、墨や鈍色という色名が用いられていた。江戸時代初期（17 世紀前半）からは、灰色は火事や火葬を連想させるために嫌われ、ねずみ色という色名が生まれた。鼠色は、ネズミの体毛

の色に基づく呼び名で、濃い色から挙げると、消炭鼠（けしずみねず：charcoal gray）、井鼠（どぶねずみ）・溝鼠（どぶねず：slate gray 初出年 1705）、濃鼠（こねず：dark gray）、素鼠（すねず：gray）、銀鼠（ぎんねず：silver gray, blue ash）、白鼠（しらねず：pale gray）。銀鼠のやや白っぽい色は小町鼠と言う。小町鼠などの色名には、微妙な色のニュアンスの差や意味の重層性を大切にする和名色名の特徴が反映している。

3. 別名と異名を含めて 122 色の残存する鼠色

百鼠の色名の由来は、植物（花、実、葉、草、樹木、樹液、果物など）、植物染料（紅花、藍、橡、茶、紫草など）、鳥類（鴝、鳩、鶉、鶯など）、天文（暁、日の出、空、雲など）、人名（源氏、利休など）、地名（江戸、京、浪速、薩摩など）、物質（土壁、食物、水、金属など）、川（鴨川、淀川など）、吉祥・縁起（長寿、勝利など）、象徴（地位、美人娘）などである。これらはすべて、良いイメージの表現であり、流行色として愛好されていたことを、「百鼠」の色名を通して再認識することができる。松葉鼠、柳鼠、紅鼠、藍鼠のように、植物や植物染料に由来する色名が多いところにも、和名色名の特徴が見られる。

百鼠は 21 世紀でも活用されている。着物や茶碗などに用いられている 122 色を、以下に挙げる。

灰色系統には、薄鼠（うすねず）、薄雲鼠（うすぐもねず）、御召鼠（おめしねず）、銀鼠（ぎんねず：blue ash）、黒鼠（くろねず）、雲井鼠（くもいねず）、雲居鼠（くもいねず）、濃鼠（こねず・こいねず・こねずみ・こいねずみ）、小町鼠（こまちねず）、白梅鼠（しらうめねず）、白鼠（しらねず・しろねず）、繁鼠（しげねず）、素鼠（すねず）、井鼠（どぶねずみ）、溝鼠（どぶねず）、中鼠（なかねず）、鼠色（ねずみいろ）、鼯鼠色（むささびいろ）がある。赤系統には、小豆鼠（あずきねず）、暁鼠（あかつきねず）、灰汁鼠（あくねず）、梅鼠（うめねず・うめねずみ：rose gray）、薄梅鼠（うすうめねず・うすうめねずみ：foggy rose）、薄桜鼠（うすざくらねず）、薄紅鼠（うすべにねず）、薄桃鼠（うすももねず）、漆鼠（うるしねず）、薄香鼠（うすこうねず：ice beige）、臙脂鼠（えんじねず）、海老鼠（えびねず）、葡萄鼠（えびねず・えびねずみ：dark rose gray）、栗鼠色（くりねずみいろ）、源氏鼠（げんじねず：dark rose

gray)、桜鼠 (さくらねず・さくらねずみ: silver pink)、嵯峨鼠 (さがねず)、猩々鼠 (しょうじょうねず)、鵲鼠 (ときねず)、鵲色鼠 (ときいろねず)、浪花鼠 (なにわねず)、根岸鼠 (ねぎしねず)、日の出鼠 (ひのでねず)、葡萄鼠 (ぶどうねず・ぶどうねずみ: dark rose gray)、紅鼠 (べにねず・べにねずみ)、紅消鼠 (べにけしねず)、紅滅鼠 (べにけしねずみ)、紅掛鼠 (べにかけねずみ)、牡丹鼠 (ぼたんねず: maroon gray)、都鼠 (みやこねず)、桃鼠 (ももねず) がある。橙系統には、薄茶鼠 (うすちやねず)、遠州鼠 (えんしゅうねず)、壁鼠 (かべねず)、絹鼠 (きぬねず)、朽葉鼠 (くちばねず: otter [カワウン] gray)、消炭鼠 (けしずみねずみ)、濃茶鼠 (こいちやねず)、茶鼠 (ちやねず・ちやねずみ)、茶気鼠 (ちやけねず)、丁子鼠 (ちょうじねず・ちょうじねずみ)、橡鼠 (つるばみねず)、生壁鼠 (なまかべねず)、山吹鼠 (やまぶきねず) がある。黄系統には、浮草鼠 (うきさねず)、江戸鼠 (えどねず)、黄鼠 (きねず)、呉竹鼠 (くれたけねず)、玉子鼠 (たまごねず)、卵鼠 (たまごねず)、鶉鼠 (ひわねず: olive drab) がある。緑系統には、青柳鼠 (あおやぎねず)、裏葉鼠 (うらはねず: green haze)、鶯鼠 (うぐいすねず)、鴨川鼠 (かもがわねず)、加茂川鼠 (かもがわねず)、軍勝鼠 (ぐんかつねず)、濃利休鼠 (こいりきゅうねず)、薩摩鼠 (さつまねず)、島松鼠 (しままつねず)、青磁鼠 (せいじねず)、相思鼠 (そうしねずみ)、千歳鼠 (ちとせねず)、深川鼠 (ふかがわねず・ふかがわねずみ: celadon gray)、松葉鼠 (まつばねず)、抹茶鼠 (matchaねず)、海松鼠 (みるねず)、柳鼠 (やなぎねず・やなぎねずみ)、淀鼠 (よどねず)、利休鼠 (りきゅうねず・りきゅうねずみ: olive gray) がある。青緑系統には、浅葱鼠 (あさぎねず)、千種鼠 (ちぐさねず: smoky leaf)、千草鼠 (ちぐさねずみ: smoky leaf)、鉄鼠 (てつねず)、水浅葱鼠 (みずあさぎねず) がある。青系統には、藍鼠 (あいねず・あいねずみ)、藍味鼠 (あいみねず)、藍気鼠 (あいけねず・あいけねずみ)、藍生鼠 (あいおいねず)、相生鼠 (あいおいねず)、薄藍鼠 (うすあいねず: blue mist)、薄水色鼠 (うすみずいろねず)、京鼠 (きょうねず)、紺鼠 (こんねず: slate violet [1905])、錆鼠 (さびねず)、青袋鼠 (せいたいねず)、空色鼠 (そらいろねず)、納戸鼠 (なんどねず)、縹鼠 (はなだねず)、水色鼠 (みずいろねず)、湊鼠 (みなとねず・みなとねずみ) がある。紫系統には、薄藤鼠 (うすふじねず: lavender mist)、薄紫鼠 (うすむらさきねず)、葡萄鼠 (えびねず・えびねずみ: grape gray)、貴族鼠 (きぞくねず: grape gray)、桔梗鼠 (ききょうねず: grape gray)、濃紫鼠 (こむらさきねず)、相思鼠 (そうしねず)、玉草鼠 (たまざさねず)、野田鼠 (のだねず)、鳩羽鼠 (はとばねずみ: dove gray)、葡萄鼠 (ぶどうねず・ぶどうねずみ: grape gray)、藤鼠 (ふじねず・ふじねずみ: lavender gray)、紫鼠 (むらさきねず) がある。

葡萄鼠 (えびねず・えびねずみ・ぶどうねず・ぶどうねずみ)

の色調は、赤系統から紫系統までの広い意味領域に及んでおり、別名として赤系統では源氏鼠、紫系統では貴族鼠とか桔梗鼠とも呼ばれている。紫系統で貴族鼠や桔梗鼠と言われるのは、和名色名の紫に高貴で上品なイメージがあるためである。

4. 英語と日本語の Gray 系の色名の相違点と共通点

英語の mouse は黒みがかった茶色の焦げ茶色が普通で、日本語の鼠は灰色が多い。英語には茶色のような灰色の意の mouse grey (初出 1606 年) がある。その他に、やや緑みを含むグレイを表す ash grey、やや青みのある灰色の cement (1922)、くすんだ黄緑みの灰色の moss grey (1902)、mist blue (1900 頃)、misty blue (1922)、misty morn (1928) がある。鉛の灰色は lead (1385)、lead grey (1705)、薄藤納戸 (うすふじなんど) は fog blue (1902) や fog (1922)、薄灰桜 (うすはいさくら) は rose mist、薄竜胆 (うすりんど) は dawn mist、薄裏葉柳 (うすうらばやなぎ) は green mist、灰蘇芳 (はいすおう) は misty pink、薄滅紫 (うすけしむらさき) は haze。銀色には silver (1481)、silver gray (1607)、silver white (1928) がある。

和名色名には、古来の喪の色で青みの灰色を表す鈍色の他に、黄褐色を含む灰色の灰汁色、鉛色がある。日本では白髪の人を表す際、現代的な印象を与える借用語として、silver gray が用いられている。

5. おわりに一紫に対する愛好と季節重視の和名

和名では赤系統の梅鼠、桜鼠、桃鼠、牡丹鼠、英名では梅鼠の意の rose gray、薄梅鼠の意の foggy rose のように、古来より愛好されている花の名前に色名に採用されている。梅は奈良時代以前から、桜や牡丹は平安時代から愛好されている。桃は奈良時代から邪気を祓う (魔除け) の力があると考えられていた。鵲は『日本書紀』に桃花鳥として登場し、平安時代にかけて「ツキ、ツク、トキトリ、タウ」と読まれ、中国では紅鶴と呼ばれていた。ギリシャ神話では愛と美の女神アフロディテの誕生を祝って、オリンポスの神々が rose を創造したと伝えられる。

濃鼠は、灰色系統に分類しているが、紫色の濃色からきており、「濃」は「濃い紫」を意味する。暁鼠は夕日の走った鼠色で、薄紫がかった灰色、鳩羽鼠はハトの羽毛のように紫色をおびた鼠色を表す。これらにも日本の紫に対する愛好が反映している。英語の sky gray は、うす曇りの空のような灰色を表しているが、薄雲鼠は、極月 (12 月) になると、木々の葉が落ちて冬枯れが生じ、寒さも増し薄曇りの日が多くなることに由来する。冬の季節を表している。